

【彦根市】

1人1台端末の利活用に係る計画

彦根市では、GIGA スクール構想のもと、すべての児童生徒に1人1台の端末が整備されました。また、市内すべての小中学校にアクティブラーニング教室が整備され、ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの環境が整備されています。本計画は、これらの ICT 環境を最大限に活用し、教育の質の向上と児童生徒の学びの深化を目指すものです。

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末の活用により、児童生徒一人ひとりの習熟度や興味関心に応じた個別最適化された学習を実現することができます。例えば、AI ドリルや学習支援アプリを活用することで、児童生徒が自分のペースで学習を進められる環境を整え、学習意欲や理解度を高めることができます。

また、アクティブラーニング教室と ICT を組み合わせることで、グループワークやディスカッションを促進し、協働的な学びを推進することができます。さらに、プレゼンテーションや動画制作を通じた創造的な表現活動を充実させることで、児童生徒の表現力や思考力の向上を図るとともに、プログラミング教育の推進により、論理的思考力や創造力の育成も目指していきます。

2. GIGA 第1期の総括

GIGA スクール構想の第1期では、彦根市内のすべての小中学校で1人1台端末の配備が完了し、校内ネットワークの整備が進められました。さらに、アクティブラーニング教室の導入により、児童生徒が協働的に学ぶための環境が確保されました。

一方で、端末の基本的な操作や一部の授業での活用は進んでいるものの、小学校と中学校での利用格差や、すべての教科での積極的な利用にはまだ課題が残されています。また、教職員の ICT 指導力の向上や、端末を活用した効果的な授業設計の支援が求められています。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 教職員の ICT 指導力向上

端末の効果的な活用を促進するためには、教職員の ICT 指導力の向上が不可欠です。定期的に ICT 活用研修を実施し、授業における活用スキルの向上を図るとともに、先進的な事例の共有会を開催し、優れた実践例を広めていきます。授業設計においては、アクティブラーニング教室を活用したモデル授業を構築し、教職員が具体的な活用イ

メージを持てるようにします。また、端末と黒板や大型提示装置を組み合わせたハイブリッド型授業の推進にも取り組みます。

(2) 情報モラル教育の推進

情報モラル教育を充実させ、SNS やインターネット上のトラブル防止に関する指導を強化します。児童生徒だけでなく、保護者や教職員向けの情報モラル研修も行い、社会全体で情報リテラシーの向上を図ります。

(3) ICT 支援員の活用

各学校に配置される ICT 支援員を活用し、端末のトラブル対応や授業支援を強化します。教職員が安心して ICT を活用できるよう、ICT 支援員が授業準備のサポートを行います。こうした取組を強化するため、国の計画に定められた 4 校に 1 人の ICT 支援員の配置を目指します。

(4) アクティブラーニング教室の利活用の促進

アクティブラーニング教室の整備により、従来の授業形態にとらわれない柔軟な学習環境が実現可能となりました。端末を活用しながら、児童生徒が能動的に学びに取り組める授業モデルを構築し、グループワークやプロジェクト学習を促進します。また、Microsoft Teams などのオンラインツールを活用し、リアルタイムでの意見共有や共同編集を行うことで、協働的な学びを深化させます。

さらに、遠隔授業の実施や外部機関との連携を強化し、他校との合同授業や地域の企業・大学との探究学習を推進します。これにより、児童生徒がより多様な学びの機会を得られるようにします。

(5) 学びの保障

すべての児童生徒が公平に学習の機会・成果を得られるよう、以下の取組を推進します。

- ・不登校・長期欠席の児童生徒支援

自宅やオンライン環境から学校の授業に参加できるよう、学習動画や課題の配信、双方向型の遠隔授業を実施します。

- ・特別支援学級・特別な支援が必要な児童生徒への対応

拡大読書、文字変換、音声読み上げなど、端末の支援機能やアプリの活用で一人ひとりの障害特性に合わせた学習方法を提供します。

- ・外国籍児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒への対応

翻訳・通訳機能を搭載した端末の活用や多言語教材の提供により、母語・日本語どちらでも学習が進められるよう支援します。

- ・家庭との連携・学習機会の拡充

端末の家庭持ち帰りによる自宅学習支援、時間や場所を問わない個別学習の仕組みを拡充します。